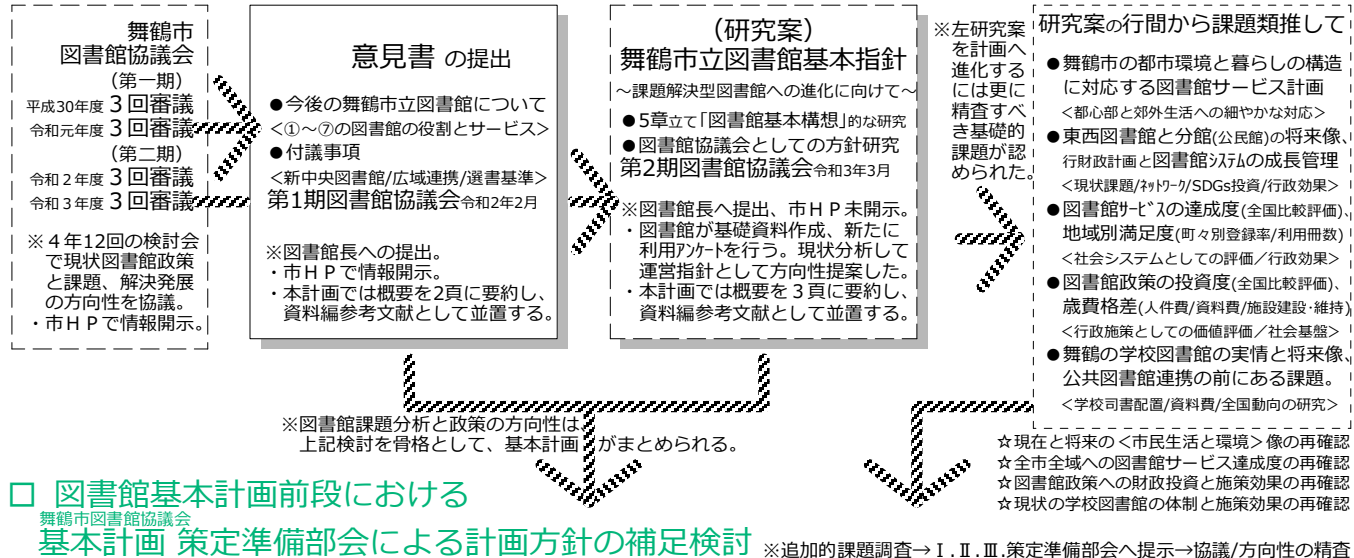


これまでの協議と追加的検討を俯瞰して

これまでの図書館政策の評価分析・研究経緯



図書館基本計画前段における

舞鶴市図書館協議会 基本計画 策定準備部会による計画方針の補足検討

▼人口/居住分布と現状の図書館システム
＜一番近い公民館図書室は＞
→山間地を含む市域342kmに
つながる図書館サービスの形は？
→単独で繋がらない公民館図書室。
公民館図書室で出来ることは？
→類似する自治体が採用してきた
つながる図書館サービスの形を。

※「舞鶴市統計書」R3.より

▼町別の貸出数と登録率
届かないつながらない
郊外の図書館サービス
→使わない使えない人の声を聴く。
サウンドオブサイレンス
→全域奉仕図書館サービスの実情
→遠くて図書館を使えない暮らし
を想像、アウトリーチサービスを
研究する。

▼東、西図書館のいま、
分館、公民館図書館の
いま＜各館訪問調査、聞取り＞
→老朽化や法的既存不適格や空調
フロン問題対応に迫られる施設
→収容力限界、資料費縮減、
→分館機能のない分館、不動産の資料
を想像、アウトリーチサービスを
研究する。

▼小中学校図書館のいま、
公共連携やアウトリーチ活用
のまゝに＜4校訪問、聞取り＞
→古くは塩見昇理論、岡山市、市川市
→学校司書配置の意味、逐次配置式
→生徒1人資料費と貸出利用実績、
→利用統計をとる大切→計画サイクルへ
→教育改革の位置づけと国助成制度
→段階的整備事例研究と始めの一步

※先行他市事例資料紹介（南相馬・竹田）

▼中央図書館の候補地
基本情報整理/適性評価
（2極都心拡大市街図+利用情報）
＜2駅と候補敷地境界図の分析＞
→街区計画条件/都市計画等の整理
→中央図書館及び駐車場規模/配置
を仮定して適地性を比較評価する。
→地震、津波高潮、浸水、内水氾濫、
伏流水（水位）、境界の地盤情報

※先行他市事例資料紹介（南相馬・竹田）

▼公共施設分布図
＜近隣住区構成と住区中心＞
→図書館公民館配置の原則を読み
将来的分館やB Mサービスのインの
配置計画根拠を整理する。
→小中学校、官民幼稚園保育園、
商業系拠点をポイントしておく。
→「公共施設再生基本計画」から
公共施設の将来像を確認する。

※「舞鶴市公共施設再生基本計画」H26.7.

▼公共交通と移動活動像
（全市域と都心拡大市街の俯瞰）
＜中心館2候補地の適正比較＞
→全市郊外から中心地2駅への
バス交通アクセス性を表記する。
→中心地2駅間の循環バスや鉄道
利用のアクセス性を表記する。
→鉄道2駅の乗降客数から、生活
日常動線の吸引力集客力を予測。

※「舞鶴市地域公共交通計画」R3.2.より

▼舞鶴市図書館システムが
達成すべき基準値の試算
＜日本図書館協会2004改訂
「公立図書館の任務と目標」より＞
図書館システム整備のための数値基準
（図書館計画の目標設定のために）
→施設延床面積、→蔵書冊数。
→開架冊数、→年間資料費
→年間増加冊数、→職員数

※日本図書館協会「公立図書館の任務と目標」

▼1,322人市民アンケートの声
386件の自由記述意見
＜令和3年、図書館協議会意見書
公開に対する市民の声を再読＞
●市民の意見→○要求課題 把握
●先進市施策→○必要課題 把握
→それぞれの課題を吟味反映して、
地域社会の将来に対応できる
図書館システム像を計画したい。

※舞鶴市公式ウェブサイト公開資料より

図書館基本計画審議会の協議と答申へ

方針だて 仮説①案

①舞鶴市図書館の
めざすもの

- 図書館サービスの3原則をふまえて
・全市民につながりえる
- 舞鶴の図書館のめざすもの
＜市民と地域社会への4約束＞
・子ども、社会弱者を支える
・社会包摂の一翼を担う
・各種の格差や課題に向合う
・広域連携施策の中核となる

方針だて 仮説②案

②舞鶴市をつなぐ/とどく
図書館サービスシステム
のかたち

たとえば、

- B M（自動車図書館）がでかける
アウトリーチサービスの仕組み。
- 分館、幼稚園、学校、デイサービス
拠点とつながる図書館網再編成。
- 駅前であって便利で、魅力的で、
専門的で、役に立つ中央図書館。
全市サービスシステムの司令塔。
→システム再編仮説モデルの提言へ

方針だて 仮説③案

③中央図書館の役割、
新たなサービスと場は

たとえば、活動と場を想像して、

- 情報を蓄え構造化して配架する
30万冊開架は利用低迷を突き破る
- 広く深く専門的な情報センター、
個々の課題解決に役立つ図書館
- 地域情報を蓄え地方自治を支える
- 拡張性のある開架書庫/公開書庫
- アクセスし易く、十分な駐車場
→基本計画審議会協議へ

方針だて 仮説④案

④学校図書館の将来へ、
充実への道程と
公共図書館の支援

たとえば、

- 学校図書館の本来的目的を踏まえて、
児童生徒の「読書と教育環境」の
充実化への道筋/方策の研究へ。
- 全国的状況・先進事例に学び、
「文科省整備支援制度」につなぐ。
- 学校図書館充実具体化の道筋と
公共図書館の支援連携を考える。
→参考例示と今後の研究体立上げ提言へ

舞鶴市図書館基本計画

令和3年度図書館協議会 基本計画策定準備部会資料

■基本計画策定準備部会「検討チャート」

舞鶴市図書館基本計画

令和4年度 第1回基本計画審議会資料

⑫ サービス計画：全市全域図書館サービスシステム

⑫-0 舞鶴市の図書館のいまを確かめる、ふたたび。 □現代社会と図書館の状況は、

- ・新自由主義的社会やコロナ疾病対応社会では、社会・経済の状況が大きな変化に押し流され、「**各種の格差**」が広がっている実感に包まれている。
- ・特に「**所得格差**」は、その挽回手段である有料資料情報へのアクセス面において、市民ひとりひとりの「**情報格差**」を派生しかねない状況にある。
- ・そもそも図書館は、市民のニーズに応え「**資料・情報への公正なアクセス**」を確保し、「**学習・課題解決への支援**」がミッションとされている。
- ・つまるところ、今日の社会において、図書館は「**社会教育機関**」であることを超えて、「**社会的包摂の一翼**」を担わなければならない状況にある。
- ・図書館は「**市民生活に関わり、つながる場**」であり、そのサービスは「**社会経済の変動をとらえて、市民の情報ニーズに応えなければならない**。」
- ・また図書館は、「**地方自治を支える体制や、地域そのものの活性化に寄与**」して、「**舞鶴という地域社会をささえなければならない**。」
- ・このたびの基本計画は、今日の図書館としての役割を果たすべく、「**舞鶴の図書館政策・サービス・運営・施設群の体制の再編**」を提言したい。

□舞鶴市図書館のいま・その7つの課題は、

- 居住人口の減少率を超える「市民の図書館利用の低迷」がつづいている。
（登録率減少・貸出冊数減衰）
- 「施設的な魅力として限界」
（環境の広さ、図書収容力、老朽化、維持継続のための改修投資の有益性に疑問）
- 図書館政策に、負のスパイラル減少が定着している。
・不十分な政策投資により政策効果実績が減衰を続け、全市民的な支持や共感から離れている。
- 現代の切実な「社会の要求」と、現実の「図書館サービス」とのずれが推測される。
（格差・弱者支援・社会包摂）
- 「資料・情報環境の深化」への対応の遅れが顕著になる。
（低調な政策投資や資料費、職員体制構築、専門化育成）
- 「都市環境 / 市民のくらし」と「図書館サービス体系/体制」とのずれが推測される。
（地域別の利用格差・身近さ）
- 図書館分館・学校図書館ほか「地域サービス拠点の充実策」が政策から放置されてきた。
（市民からの信頼/需要の萎縮）

□町住区ごとの「図書館登録率」と「ひとり年間貸出冊数」を知る

舞鶴市には、東西2極の中心市街地に対応して東西図書館が均等にサービスを展開しているものの、図書館に近く比較的利用の高い7町住区でも、市民一人年間貸出冊数の全国平均値を越えていない状況が左表で読み取れる。このサービス成果の経年的な停滞の原因を明らかにして、改善の方向性を計画するのが、この基本計画の任務となります。

現代の図書館サービスの3つの柱のひとつである「全域奉仕」が十分に効果を上げているか、ここで確かめます。

■4館別利用登録（令和2年度）

	登録者数	比率
東図書館 西図書館	29,107人	75.7%
中分館	6,785人	17.7%
南分館	2,473人	6.4%
加佐分館	79人	0.2%
合計	38,444人	100%

- ・3分館は蔵書管理/登録/貸出/各館相互の貸借返却の連携/なし。
- ・3分館の蔵書構成や貸出冊数についての統計をとっていない。
- ・3分館はかつての公民館図書室的運営ながら図書館分館名称を持つ。

